

田中建設株式会社とのタウンミーティング

日 時 令和4年12月26日(月) 14時~14時30分

会 場 田中建設株式会社

参加人数 23人

1) 開会

2) 市長 市政報告

○はじめに

・インクルーシブのみというテーマでお話をさせていただく。インクルーシブというのは、仲間外れにしない、地域共生社会という意味です。地域共生社会というのは、健康な人も障害を持った人、子どもも高齢者も外国人も能美市に住んでいらっしゃる人全てが、幸せに快適に安全安心に暮らしていけるということで、能美市は地域共生社会を目指している。

・クアハウスN9という施設の隣にあるインクルーシブプレイグラウンドのみという公園です。滑り台やブランコ、障がいを持っている子どもでも遊べるそんな遊具が設置されている公園として、まさに能美市が進めようとしている地域共生社会の象徴となる場所です。

・今年は3年ぶりに、茶碗まつりや根上七夕まつり、辰口じょんからまつりなど色々なイベントや行事が開催された。今年は寄付金、義援金を多くいただき、連携協定も多くの機会をいただいた。

○8月4日の大雨について

・当日は、朝4時18時に大雨警報が出て、5時8分に土砂災害警戒情報が出された。市では、対策本部を立ち上げ、避難指示を発令した。夕方になり、雨水が下水道に入り、下水道が使えない事態も起きた。

・今回の雨は、過去に経験したことのない大雨で、4年前は大雨警報から土砂災害警戒情報まで約5時間あった。ところが今回は大雨警報が発表されてから土砂災害警戒情報が発表されるまで50分と短かった。短時間で多くの雨が降り、一時間当たり86mmという短時間で大量の雨が降った。

・市内でも冠水被害が多くあり、史跡名勝も多くの被害を受けた。床上床下浸水は約120

件、農地に水が入ったのが22ヘクタール、土砂が流入したのは10ヘクタール、また鍋谷川の頭首工15か所が全て壊れました。イノシシの柵も1キロに亘り壊れ。今現在これらの復興復旧に取り組んでいる。

・今回色々なことを経験したが、過去に経験したことの無い大雨だったので、過去に経験したことの無い対応を我々市役所も求められた。例えば、床上床下浸水したお宅から水をかき出すポンプや、冠水された家屋を消毒する消毒液とポンプが必要でしたが、過去に経験したことが無いため用意していなかった。そういった、色々なことが一気に押し寄せてまさに過去経験したことが無い対応を求められました。

・我々市単独でやれることには限界があると思いました。市民や地域の皆さんがたの協力なくしては、防災減災には繋がっていかないと改めて感じ、これからも市民の皆さんと一緒にやって対策していくことを考えたいと思っている。

○市の施策・課題について

・能美市では七つの施策すべてが移住定住の促進に繋がるということで、色々な施策を行っている。なぜ移住定住を促進するかというと、自治体の勢い、市や町が発展しているかを感じる指標を私は人口だと思っている。人口増には自然増と社会増がある。お亡くなりになる人よりも生まれてくる赤ちゃんが多いと自然増。引っ越していく人よりも、引っ越してくる人が多いと社会増です。この自然増と社会増を増やすため、移住定住を促進していくことを全体的に行っているのが、能美市の取り組みです。

・移住定住を促進するといっても、市民や地域の力なくてはできません。ふるさと愛の醸成が大切だと思っている、能美市ではふるさと愛の醸成に力を入れている。住んでいる方に能美市を好きになってもらって、誇りに思ってもらいたい。

・ただ今人口が減っている。いろんな要因があるが、一つは新型コロナウイルス感染症の影響で生まれてくる赤ちゃんが減ってきている。それから能美市は外国人の住んでらっしゃる人口当たりの率が県内ナンバーワンです。外国人がなかなか能美市に戻ってこれないこともあり、人口が減りだした。社会増のために子育てや住環境を充実させる。自然増をするために健康寿命を延ばすことに取り組んでいます。

・外国人の比率がナンバーワンの為多言語対応もしている。市役所ではタブレットに話してもらおうと、外国語と日本語が同時に表示され、お互いに確認して手続きを進めていくこともやっている。

・3町が合併し17年になるが、11ある小中学校11の内築50年が35%ある。公共施設や道路、インフラも古いものが多く、どの順番でどれぐらい直していくかも課題となっている。

○インクルーシブシティについて

・これらの課題に対して、デジタルの力を使って改善をしていこう、利便性を高めようとしています。能美市は、デジタル田園都市国家構想推進交付金をいただいた。全国で27の自

治体の一つに能美市が選ばれました。

・取り組みの一例として例えばゴミ出しです。スマートフォンにアプリを入れると、あなたの町のゴミを出す日はいつなのか案内をします。市内の小中学校では GIGA スクール構想として、小中学生全員机の上にタブレットをおいて勉強している。黒板も普通の黒板は半分程度で電子黒板を使って授業をしている。防災減災では、高機能のドローンや、屈折式はしご車、救急車電動ストレッチャーを導入している。市役所ではペーパーレス化を進めています。

・一人暮らしの人が多くなった、デジタルの力を使って今何をしているかということ、例えば一人暮らしの人の具合が悪くなった。近所の人が救急車を呼んだとする。救急隊はその人の病歴や、服用している薬や緊急連絡先を把握して病院に伝えないといけない。けれども、本人は具合が悪くて聞けないかもしれない。その対策として、事前に全部データベースに入れて、そして必要な情報が必要なときに取れるようにしようと、今やろうとしている。

・公民館でカメラ越しに診察を受けて、病院までいなくても薬をもらえたり、子どもたちが公民館で e スポーツを楽しんだり、公民館で Web 会議ができたり、という時代もおそらく来るだろうと、いろんなことをやっている。

・能美市では各家庭に防災行政無線を設置している。防災行政無線から避難指示や市の取り組み、イベントなどを流しています。ただその場にはいないと聞き漏らしたり聞こえにくかったりすることから多重化をします。メールで流したり、固定電話で確認できるようにしていく。災害関係の情報だけではなく、イベントや施設の情報をまとめて、2クリック3クリックで全部わかるような、そんなポータルサイトのようなものを今作ろうとしています。

・将来的には、スマートコンストラクションを導入する会社を市としてもバックアップしていくことや、水道メーターの情報を電波で飛ばして情報を収集しようと考えていますが、例えば水道メータには電源や電波等の課題もあり、今検討をしている。

・デジタルばかりでは、やはりスマートインクルーシブシティにはならない。例えば、今一家の中でいろんな悩みを持つ複合世帯が増えている。それぞれの悩みを相談できる市の窓口というのはそれぞれ担当部署が決まっている。そうすると、いろんな課を回る必要がある、これを改善するためにチームを作って、一つのところに行けば全部相談できるようにしてサポートできるようにしようと今やろうとしている。

○2023 年の取り組みについて

・ウィズコロナとして、ブレーキばかりも踏んでいられない、アクセルをもっと踏んでいこうと考えている。新型コロナウイルス感染症の影響で、文化芸能を継承していく行事が本当に少なくなり、スポーツ力も落ちてきている。こういった対策もしっかりやっていきたいと思っている。

・カーボンニュートラルの取り組みです。能美市は今後地球温暖化対策実行計画っていうのを策定していく。パリ協定で、2030 年に温室効果ガスを 2013 年ベースで半分にしなさい

と決まりました。これを全世界的に日本も石川県も取り組んでいく。温室効果ガスをどう削減していくか世界で今やっていることです。能美市では温室効果ガスの約9割が二酸化炭素です。

・能美市も温暖化対策をしている。例えば市庁舎のLED化、それから太陽光発電の導入、のみバスの導入、こういったことをやりながら、CO₂を削減していこうと思っている。

・地球温暖化対策実行計画に対してパブリックコメントを実施している。ぜひ皆さんに、能美市はこんなことをやっているんということ念頭に、どんなことをやれば温暖化ガスが削減できるのか、地球に優しくなれるか、ということをご提案をいただければと思う。

○おわりに

・能美市はSDGsの未来都市にも選定をされている。小学生や中学生にもSDGsに取り組んでもらいたいと、私も小・中学校に行ってSDGsの話をする機会がある。既に皆さんSDGsやってくれている。例えばどんなことかという、給食を残さないで食べるということ、地域の人たちにみんなで挨拶をするというこれがSDGSに繋がるんですよ。と話します。小・中学校に行って、皆さんのまちをどんなまちにしたいですか、と聞くとこんなまちにしたい、あんなまちにしたいと答えてくれます。それをするために今何をすればいいんですか、と全部レポートに書いてくれる。それをいただいて一つでも二つでも実現ができないかということにも取り組んでいる。

3) 閉会